

保存版



鹿角市 避難場所マップ

もしもに備えて、避難場所を確認しておきましょう。

災害発生時の避難場所(避難地、避難所)は地図のとおりです。

避難地、避難所までの距離がやや遠くなる地域については、各自治会または自主防災会ごとに地域内の安全な場所を一時避難地としてください。

避 | 難 | 地

災害発生時に一時的に避難する
グラウンド・公園等の安全な広場



小中学校のグラウンドや公園等、市内35ヶ所
を指定しています。

避 | 難 | 所

避難が長期化することを想定し
た市民センター等の公共の建物



第1避難所(市内8ヶ所)のほか、第2避難
所(27ヶ所)が避難の規模に応じて随時開
設されます。

もしもの時の連絡先

◎公共機関

緊急連絡先	区分	名称	電話番号	メモ
	総合防災	鹿角市 総務課	30-0203	
		夜間(警備)	30-0699	
	消防・救急	消防署	119	
	警察	鹿角警察署	110	
	電気	東北電力	23-3206	
	水道	鹿角市 上下水道課	30-0273	
道路	鹿角市 都市整備課	30-0261		

◎自治会・自主防災組織など

連絡先	区分	氏名	電話番号	メモ
	会長			

◎親戚・知人の連絡先

氏名	住所・電話番号など	続柄・関係

◎NTT災害用伝言ダイヤル 171

家族や知人の安否の確認に利用できます。(事前契約は不要です。)

被災地
もしくは
それ以外

伝言の録音

伝言の再生

災害用
ダイヤル
センター

伝言の録音

伝言の再生

被災地
もしくは
それ以外

伝言の録音 市外局番から

171→①→(○○○○)○○-○○○○

伝言の再生 市外局番から

171→②→(○○○○)○○-○○○○

災害などがおきてしまったら…

緊急度



避難準備

災害の発生する可能性が高まった状況。避難行動に時間を要する人は避難を始めて下さい。

避難勧告

災害の発生する可能性が明らかに高まった状況。通常の避難行動ができる人は、一時避難地、避難地、避難所への避難を始めて下さい。

避難指示

災害の発生する可能性が非常に高い、または災害が発生した状況。ただちに避難して下さい。

自治会、自主防災組織からの連絡や、広報車により避難を呼びかけます。
連絡が無くても危険を感じたら自主的に避難しましょう！

避難所開設の流れ

災害の発生
若しくは
発生の恐れ

鹿角市では、次の施設を第1避難所として指定し、避難準備情報発令前から優先的に開設します。

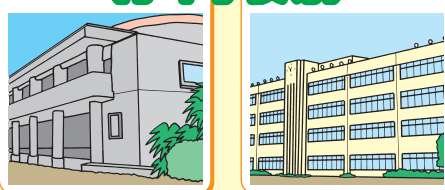
第1避難所

花輪市民センター	花輪字柳田36	23-3351
柴平地域活動センター	花輪字八幡平12-1	25-2180
広域交流センター	花輪字荒田1-1	22-2611
大湯地区市民センター体育場	十和田大湯字権現堂22-1	37-2057
十和田市民センター	十和田毛馬内字城ノ下7-5	35-3045
錦木地区市民センター	十和田錦木字浜田91-1	35-4477
尾去沢市民センター	尾去沢字軽井沢46-5	23-2553
八幡平市民センター	八幡平字堂の上64-1	32-2029

第1避難所の開設
(各市民センター等)



第2避難所の開設
(小中学校等)



第2避難所

第1避難所での避難者の受け入れが困難な場合や、災害発生の危険が増した場合、避難規模に応じて最寄りの小中学校等を第2避難所として順次開設します。

1

避難する前に、もう一度火元を確かめる



2

荷物は最小限にする



非常持出品はひとつにまとめ、すぐ取り出せる場所に備えておきましょう。

3

家には避難先や安否情報を記したメモを残す



4

動きやすい服装で、2人以上での避難を



避難するときは、動きやすい服装で、隣近所に声をかけ2人以上での避難を心がけましょう。

安全避難の

8つの

ポイント

5

速やかに避難する



避難勧告などは、危険が迫ったときに出されますので、速やかに行動しましょう。避難の際には警察などの指示に従いましょう。

6

お年寄りなどの避難に協力を



お年寄りや子供、病気の人などは、早めの避難が必要です。近所のお年寄りなどの避難に協力しましょう。

7

避難はできるだけ指定された避難場所へ



各地区の第1避難所のほか、避難規模に応じて随時第2避難所が開設されます。係員の指示に従いましょう。

8

避難場所へ移動するときは狭い道、塀ぎわ、川べりを避ける



●避難生活に備えて

災害などがおきる前に

大地震など緊急の災害時に、救援体制が整い、救援物資が届くまでには約3日かかると言われています。いざというときに持ち出せるよう、準備しておきましょう。

非常持出品

《貴重品》

- 印鑑
- 預金通帳
- 保険証
- 免許証 など

《救急・衛生用品》

- 消毒薬 ●傷薬 ●目薬
- 胃腸薬 ●鎮痛剤 ●解熱剤
- 絆創膏 ●包帯
- ティッシュペーパー ●さらし など

《携帯ラジオ》

- 予備電池

《照明器具》

- 懐中電灯(できれば一人に1個)
- 予備電池 ●ろうそく
- ライター など

《非常食品》

- 缶詰 ●乾パン ●ビスケット
- チョコレート
- ミネラルウォーター など

火を通さなくても食べられる物

《衣類》

- 下着類 ●セーター
- ジャンパー ●タオル
- 防災ずきん ●軍手 など

《道具》

- 缶切り ●栓抜き ●ナイフ
- 割り箸 ●紙製食器 ●ロープ
- ビニール袋 など

《赤ちゃんがいる場合》

- 粉ミルク ●ほ乳びん
- 離乳食 ●おやつ
- 紙おむつ など

非常持出品、重さの目安は
成人男性で15kg
女性で10kg

備蓄品

《水》

- 飲料水は一人1日3リットルが目安(煮沸して使用)
- ごまめに取り替える
- 生活用水(炊事、洗濯、トイレなどは、浴槽や洗濯機に貯水)

《燃料》

- 卓上コンロ(ガスボンベはストックも)
- 固形燃料 など

《食料品》

- 米 ●アルファ米
- レトルトパック食品 ●カップ麺
- 梅干し ●調味料 ●菓子類 など

■無理なく備蓄するには…
まず、通常買う2倍の量の米や缶詰を購入。半分使ったら同じ量を買います。これで常に新鮮な食料を確保。

■備蓄品の保管場所

家屋が倒壊しても取り出せるように頑丈なコンテナなどにまとめ、物置やベランダなどに置く。